



学校だより

(10月号) 令和3年9月30日発行

<http://shibiraki-e.saitama-city.ed.jp/>

【学校の教育目標】

- ◎ 夢 (ゆめ) にむかって とともに学びあう学校
 - ・すすんで勉強する子
 - ・自分からあいさつのできる子
 - ・仲よくたすけあう子
 - ・じょうぶな子

《今月の生活目標》 本をたくさん読もう

長生きしたカブトムシやトノサマバッタ

～生き物を育てることを通して～

校長 白石 徳一郎

爽やかな秋を感じる気持ちのよい季節となりました。新型コロナウイルス感染防止のため、運動会も教職員と児童だけで行うことになりましたが、コロナに感染していないことに感謝し、小規模であっても、児童には運動会に参加できることを喜び、楽しんでほしいと思います。

さて、緊急事態宣言の延長で、不要不急の外出が制限され、楽しい思い出づくりもなかなかできませんので、身近な生き物を育てることについて、またお話してみたいと思います。

カブトムシは、夏が終わるとやがて寿命を迎えます。しかし、土やえさなど、同じ条件で飼育していても、8月末に寿命を迎える個体と、9月、10月まで長生きする個体があり、カブトムシにも長生きする個体のいることがわかります。10月下旬になると、急に寒くなってきますが、10月28日になっても元気だったカブトムシがいました。

10月28日

夏から長生きしているカブトムシ。寒くなって動きが鈍くなりました。

昆虫ゼリーも冷蔵庫で冷やしたように冷たくなっていました。太陽の光に当てて、温めてあげました。



9月に捕まえたトノサマバッタが、10月、11月と長生きして、12月まで長生きしたことがありました。

12月10日

9月22日に捕まえたトノサマバッタ。ずっと元気でしたが、寒くなって弱ってしまいました。手のひらに乗せると、氷のように冷たかったので、手のひらで温めてあげました。暖房のある部屋に入れてあげました。



バッタの飼育はとても簡単です。エノコログサを根っこから土ごと取ってきて、飼育ケースの中に土とエノコログサを入れて、土に水をやり、エノコログサを育てるつもりで飼育環境を作るとバッタも元気に長生きします。

バッタがエノコログサの葉っぱを食べているのを見ると、嬉しくなります。エノコログサは週に1回くらい新しいものと交換するといいますが、元気で生きていてくれると嬉しいものです。

生き物を飼育するとえさ代等が多少はかかります。しかし、バッタのえさはその辺りに生えているし、かわいいし、長生きするので楽しいと思います。12月に入ると、緑色のエノコログサを探すのが難しくなり、えさがなくなってくるので心配しましたが、やがて寿命を迎えました。

生き物を飼育すると、思いやりや優しい気持ちが育まれると言います。生き物に興味があるお子様には、ぜひ、親御さんと一緒に飼育に挑戦してもらえたらと思います。

